

鴨川公園（葵地区）の整備計画について

平成30年8月10日
京都府建設交通部都市計画課
電話 075(414)5272

京都府では、この度、鴨川公園の葵地区における整備の方向性を示す「鴨川公園（葵地区）整備計画」を策定しました。

鴨川公園は、主に鴨川の河川敷に整備された公園で、葵地区は鴨川と高野川が合流する地点の北側に位置しています。付近には下鴨神社や糺の森などが立地し、京都の伝統や文化を育んだ歴史ある地域にあります。歴史的なこの地区において、森の景観を守り、自然豊かな眺望を取り込んで、府民に開かれたにぎわいあふれる活動拠点を整備してまいります。

今後、詳細設計を行い、平成34年度の整備完了を目指します。

1 整備計画内容（別添資料参照）

○クロマツなどの歴史的な樹林を活かした景観形成

- ・クロマツを景観資源として活かし、森のシルエットを維持する。
- ・生垣や低木は剪定や伐採を行い、外部からの見通しを良くし、園内を明るくする。

○明るく開放的な広場と園路整備

- ・園路や出入り口などのバリアフリー化を進める。
- ・トイレ、倉庫などを集約し、周辺と調和した、明るく利用しやすい複合施設を整備する。

○新たな交流・文化を創出させる環境整備

- ・イベントスペースとしても活用できる広場を整備する。
- ・イベント等に活用できる電源やスクリーン固定具などの整備を検討する。

2 整備計画策定日

この発表をもって策定とする。

3 今後の予定

H30年度：詳細設計

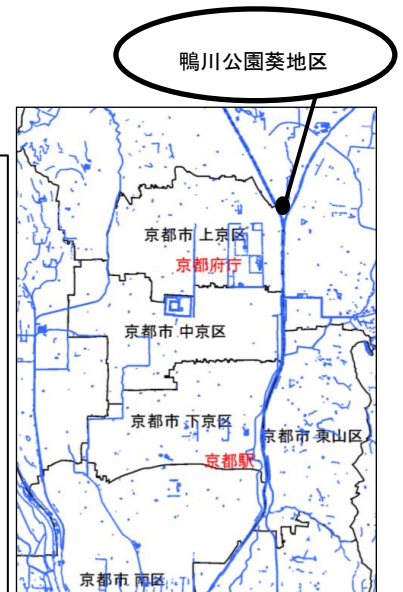
H31年度～H34年度（予定）：工事实施

<コンセプト>

歴史ある森の景観を守り
魅力あふれる公園

自然豊かな眺望を取り込み
やわらかさと
やさしさのある空間

鴨川デルタと一体的に
にぎわいあふれる活動拠点



4 「鴨川公園葵地区整備計画に係る意見聴取会議」の開催経過

- ・ 第1回（H29.2） 葵地区の現状把握、整備の方向性について
- ・ 第2回（H29.11） 全体イメージ、ゾーニング計画について
- ・ 第3回（H30.3） 整備計画（案）、整備イメージについて

[※ 第41回鴨川府民会議（H30.6）において、同様の整備計画（案）を説明]

※ 「鴨川公園葵地区整備計画に係る意見聴取会議」の委員は以下名簿を参照

鴨川公園葵地区整備計画に係る意見聴取会議委員名簿

氏名	現職
カワサキ マサシ 川崎 雅史	京都大学大学院工学研究科 教授
キドサキ ナギサ 城戸崎 和佐	京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科 教授
ショウブイケ クニ オ 菖蒲池 邦雄	下鴨学区 市政協力委員連絡協議会 会長
スギエ サダアキ 杉江 貞昭	鴨川を美しくする会 事務局長
ホリエ ノリコ 堀江 典子	佛教大学社会学部公共政策学科 准教授
マエノ ヨウスケ 前野 庸介	下鴨安心・安全ネットワーク 代表
ニイダ サダオ 仁井田 定男(第1回) マズナガ ヨシアキ 増永 好昭(第2・3回)	下鴨交通安全会 会長

(敬称略、五十音順)



鴨川公園 葵地区の歴史

- 昭和 14 年 : 三井合名会社の土地 1766 坪を京都府に寄付。
- 昭和 15 年 : 公園整備工事を起工し、6 月に竣工。
- 昭和 16 年 : 鴨川と高野川の合流地域を葵公園として指定。
- 昭和 26 年 : 鴨川の河川敷の一部と葵公園を一つの
府立鴨川公園とした。
- 昭和 43 年 : 葵地区に、植栽やベンチが設置される。
- 昭和 45 年 : トイレが設置される。
- 平成 5 年 : 老朽化したトイレを再整備し、現在の姿となる。
- 平成 10 年代 : 違法駐輪により公園本来の機能が発揮できなかったことから、出入口にバリケードを設置
- 平成 28 年 : 出町柳駅周辺の駐輪場整備が進んだことから、出入口のバリケードを撤去



鴨川公園 (葵地区) 整備計画



京都府 建設交通部 都市計画課 京都土木事務所 河川砂防室

京都府庁 建設交通部 都市計画課
京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
Tel: 075-414-5326
Fax: 075-414-5329

京都土木事務所 河川砂防室
京都市左京区賀茂今井町 10-4
Tel: 075-701-0101
Fax: 075-701-0104

鴨川公園（葵地区）整備計画

鴨川公園葵地区は、過去の違法駐輪対策のため出入口を規制したことや樹木が生い茂り、全体が薄暗いことから、公園利用者が少ない状況です。このため、「①周辺の環境と調和する景観づくり」「②誰もが安心して利用できる、安全で快適な空間づくり」「③立地条件を活かし、新たな交流や情報発信の拠点づくり」の3つを基本方針として意見聴取会議を開催し、有識者や地元関係団体の皆様から幅広いご意見をいただき、「鴨川公園（葵地区）整備計画」を取りまとめました。

■現状と課題

- 鴨川公園葵地区は、鴨川と高野川の合流部に位置し、その北側には、旧三井家下鴨別邸、下鴨神社および紉の森と一体となった緑豊かな樹林地が帯状に形成されている。一方で、樹木が生い茂っているため、周辺道路から公園内を望むことができず、薄暗い雰囲気となっている。
- 地区周辺1km圏内には、社寺や大学などが多く点在しており、鉄道駅によるアクセシビリティも良好であることから、普段から観光客や学生などが集まるエリアとなっているが、違法駐輪対策の結果、出入口がバリアフリー化されておらず、鴨川デルタとは対照的に公園の利用者は少ない。

■コンセプト

歴史ある森の景観を守り
魅力あふれる公園

自然豊かな眺望を取り込み
やわらかさとやさしさのある空間

鴨川デルタと一体的に
にぎわいあふれる活動拠点

■整備計画

●クロマツなどの歴史的な樹林を活かした景観形成

- 京都の伝統技能である「剪定・すかし」でクロマツを景観資源とする。
- 生垣は低く剪定し、外周部から公園内への見通しを良くする。
- 低木は剪定や伐採を行い、園内を明るくする。
- 樹形の良い既存樹木が目立つよう保全する。
- 森のシルエットを維持する。

●明るく開放的な広場と園路整備

- バリアフリー化を進めるとともに、自然が持っている形状を活かす。
- 入口の形状や園路の線形などを工夫して自転車を通りやすくする。
- 明度の高い園路舗装材などにより明るさを向上させる。
- 材料選定にあたっては、デザインだけでなく耐久性なども総合的に考慮して決定する。
- 隣接する植栽地も剪定などを行い、鴨川への眺望を確保する。

●新たな交流・文化を創出させる環境整備

- 広場等を活用したイベントスペースを創出する。
- イベント等に活用できる電源やスクリーン固定具などの整備を検討する。
- 管理計画を作成し、適切な維持管理に努める。
- イベント等の公園利用、放置自転車対策及び情報発信等については管理のあり方を含め、府民参画、協働においても、関係団体と連携しながら、検討、調整する。

クロマツに囲まれた憩いの広場整備

整備イメージ
(クロマツに囲まれた広場)



- 多くの方が集う場所として、鴨川デルタと繋がる広場を整備する。
- クロマツの林間空間から鴨川を眺め、下鴨神社への参拝客の休憩スペースを創出する。



木漏れ日広場・複合施設の整備

- 木漏れ日を楽しむ休息の広場を整備する。
- トイレ、倉庫などを集約し、周辺と調和した、明るく利用しやすい複合施設を整備する。
- トイレへの動線に照明設備を設置する。



北側エントランス整備

- 北側から直線的に入る動線を変え自転車が下鴨西通りを直進するように誘導する。
- 交通量が多い北側交差点部に向けて公園の顔となる小庭園を整備する。



南側エントランス整備

整備イメージ
(南側エントランス)



- 腰石積み等で公園の顔をつくる。
- 出町橋側入口：鴨川との一体感、連続性を高めるとともに、バリアフリーの対応を行う。
- 河合橋側入口：段差を設け、自転車での通り抜けを抑制する。
- 下鴨東通側入口：下鴨神社への参拝客が公園に入りやすくなるように小庭園を整備する。



泉川の景観整備

- 泉川沿いの整備により、泉川、白壁と一体となった景観を創出する。



白壁とサクラの景観整備

- 白壁とサクラを楽しむ空間とする。

